

H27年建築2級学科試験 問題

No1 照明に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1 照度は、単位面積あたりに入射する光束の量をいい、単位はlx（ルクス）である。

2 輝度は、視感度に基づいて測定された単位時間あたりの光のエネルギー量をいい、単位はlm（ルーメン）である。

3 タスク・アンビエント照明は、全般照明と局部照明を併せて行う方式である。

4 グレアは、高輝度な部分や極端な輝度対比などによって感じるまぶしさである。

[¥ ---] 2

説明文はルーメンの内容である。尚、輝度の単位はcd（カンデラ）、cd/m²で表記する。ルーメンは光束、ルクスは照度である。

No2 音に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1 遮音による騒音防止の効果を上げるには、壁や窓などの透過損失の値を高めるようにする。

2 床衝撃音には、軽量床衝撃音と重量床衝撃音がある。

3 講演を中心とする室の最適残響時間は、音楽ホールに比べて長い。

4 NC曲線は、騒音が人に与える不快感やうるささの程度を、周波数別に許容値で示した曲線である。

[¥ ---]

残響時間が長い場合、音が重なるので講演の場合は適当でない。音楽演奏より残響時間は短くする。

No3 色に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1 色の膨張や収縮の感覚は、一般に明度が高い色ほど膨張して見える。

2 色の温度感覚には、暖色や寒色と、それらに属さない中性色がある。

3 同じ色でもその面積が大きいほど、明るさや、あざやかさが増して見える。

4 補色を並べると、同化し、互いにあざやかさが失われて見える。

[¥ ---] 4

補色は、色相環で正反対に位置する関係の色の組合せ。

補色の関係にある色を並べると色相の違いが強調され、より鮮やかに見える。これを補色対比という。

この過去問は受講者専門のページです。
お申し込みされると全ての過去問がご覧頂けます。
お早目のお申し込みお待ちしております。

受講お申込みはこちらから



<https://www.sekou-net.jp/entry/>